

(第3種郵便物認可)

2022年(令和4年)8月3日(水曜日)

竜王戦おやつに「富士山」を



商品開発にアイデアを出し合う富士宮高校会議所のメンバー(7月、富士宮市内)＝同会議所提供

富士宮対局

SDGs(持続可能な開発目標)に取り組む同会議所は、エコ肥料「マスマスマ肥」を考案し、この肥料で育てた農作物を使って食品を作るなどの活動をしています。今回、対局時のおやつを公募すると知り、新ス

10月28、29日に富士宮市で行われる将棋の第35期竜王戦(読売新聞社主催)第3局で対局中のおやつにしてもらおうと、市内の高校生でつくる団体「富士宮高校会議所」が富士山をイメージした創作スイーツが商品化される。棋士に渡す「おやつリスト」は投票などで決まる予定。メンバーはリスト入りを果たし、「藤井聰太竜王の目に留まれば」と期待を膨らませている。

イーツの開発を始めた。

注目したのは、藤井竜王の今年2月のユニークな発言。最年少でタイトル五冠を達成した藤井竜王が、自身の現在地は富士山の何倍かと記者会見で問われ、「森林限界(樹木が密生す

高校生スイーツ商品化へ

る上限)の手前」と答えた。

その発言から、スイーツのイメージを富士山として、商品名は新たな盤上での挑戦に期待して「森林限界を越えて」と決めた。スイーツの下層は樹木の緑色、中層は森林限界より上部に広がる岩場の茶色、上層は赤

い色とした。こうしたイメージを、1度に絞り込む。フルーツなどの定番品を加えてリストを完成させる。

藤井竜王と挑戦者は2日間の対局中、最大4回のおやつタイムでリストからスイーツを選ぶという。

(74)は語る。

商品開発で2年生リーダーを務めた勝亦海吏さん

(県立富岳館高2年)

ヤレンジ自体が得がたい思い出」と話した。

1個税込み500円。9日

日の投票開始と同じ時に、同店で販売する予定。

おやつ公募に38件

今回の対局を盛り上げようと、富士宮市などが「竜

王戦おやつ選びコンテスト」を開催している。

棋士に提供する「おやつリスト」に載せるスイーツ

リスト」に載せるスイーツ

リスト」に載せるスイーツ

リスト」に載せるスイーツ

リスト」に載せるスイーツ

リスト」に載せるスイーツ

リスト」に載せるスイーツ

ゴを使用。落花生、イチゴは富士宮産で、マスマスマ肥で育てた落花生を使う。「対局の火照りを上層のイチゴでさっぱりと癒やしてもらえるはず」と製造責任者久保田とも子さん

。

藤井竜王が食べたものは、これまで大きな話題を呼んできた。コンテストは「お菓子の里として市を売り出すチャンス」(須藤秀忠市長)との狙いがあ